

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070700347
法人名	館林衣料株式会社
事業所名	グループホーム多々良の里
所在地	群馬県館林市木戸町539
自己評価作成日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/kanri/10/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	H25.1.16

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度の目標「絆」を掲げ、常に言葉遣いに気を配り、全員が家族であるという意識を持って介護に携わっている。朝礼も続行しており、心掛けの共有もしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員には、ケア・サービスを向上させていこうという深い思いがあり、様々な工夫をしながら、評価を活かした改善に取り組んでいる。職員は利用者一人ひとりに穏やかな態度で寄り添い、コミュニケーションを大切に向き合っている。今年度の目標である「向上心と思いやり」に基づいた支援がなされている。明るい雰囲気の中で大きな家族のように、利用者が安心して生活しているように見受けられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲げた理念に対し、職員が共有できるよう努力している。	管理者と職員は、朝礼や申し送り時、会議等で理念を振り返り、共有できるよう努めている。1年間の目標として“向上心と思いやり”を掲げ、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から皆さんへと、野菜等頂き、毎日の暮らしに役立てている。	近隣の人達と散歩時に挨拶を交わしたり、野菜等を頂くこともある。ホームでチラシを作成し、地域住民と一緒に公園で桜の花見を行った。芸術ホールで開催された映画鑑賞会に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	心掛けてはいるが、なかなか活かしきれていない。実習生の受け入れは積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、地域の方や市の担当者、利用者の家族等で意見交換している。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催されている。運営状況等の報告や避難訓練・介護保険・看取り等について意見交換を行い、出された意見等をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話対応等するが、なかなか思うようには、取り組めていない。	利用者の報告や申請代行で市の担当窓口へ出向いたり、電話で相談等を行い、市の担当者と連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険性を重視しながら見守り強化を奨め、施錠を緩めるよう努力している。	「身体拘束廃止推進員」養成研修に参加し、会議で内容を報告している。帰宅願望や外出希望の強い利用者があり、日中・1階玄関は施錠をしている。(決められた番号を押さないと出られない) 2階は食事時等を除き、室内出入口は施錠をしている。	指定基準で禁止している身体拘束とは、「身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為」である。職員の見守りの方法を徹底し、利用者一人ひとりの気分や状態を捉えることで、鍵をかけないケアに取り組んでほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての資料等を職員全員で回覧し、共有し、注意を払っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的事例は少ないが、講話を聞く事や文献などを用い、活用が計れる様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実行している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所の際意見交換し、日常に活かしている。	利用者の会話の中から要望等を汲み取り、外食(ラーメン・回転寿司)、初詣やフラワーパーク等へ出かけている。家族等の来訪時や運営推進会議の際には、意見等を聞くように努めており、電話で聞く場合もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議には施設長と話し合い、意見や提案等は受け入れてもらっている。	日頃から職員の意見や提案には耳を傾けている。月1回の職員会議では職員から意見等が出され、それらを運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場をより深く理解してもらえよう、伝える回数を積み重ね、各自の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加にも、内容の説明・勤務調整・職員同士一緒にいくことを伝えたりして、皆が少しずつ前進出来る様配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講演会での出会いを大切にして、直接言葉を交わせることに努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の安心を第一に考え、傾聴を常に心掛け、何でも話して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時、要望を伺う姿勢をとり、時に電話やミニレター等を送り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安心して利用して頂ける様、その時々を大切に交流を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを共有しており、それぞれの方の思いに共感し、その人らしさを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族との関係を深められる様、支援を続けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来易く来所して頂ける様、支援に努めている。	友人や知人、家族等が遊びに来ている。家族等と一緒に帰宅や墓参り、外食等に出かけている。電話は自由に掛けてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの関係を良好に保てる様、仲良しの方の席を隣にしたり、顔の見える位置に移動したりして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	会ってお話を伺ったり近況を伺い、関係を大切にし、利用者家族の経営しているお店にも伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情等から、理解を深めるようにしている。個人ノートを活用し、必要に応じて検討している。	日々の関わりの中で、本人の話をよく聴いたり、表情や行動等を観察し、その時々言葉や様子を「個人ノート」に記載している。家族等からも情報を得て、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、家族に生活歴を記入して頂き、お話を伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者各々に担当者を配置し、ケアプランに活かし、朝・夕の申し送りで現状を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来所されない家族もいて、話し合いが希薄である。職員間では、ミニカンファレンスでの意見交換に努めている。	本人・家族等から思いや意向を聞き、職員間で意見交換を行い、介護計画を作成している。月1回のモニタリング、6ヶ月毎に定期的な見直しを行っている。随時の見直しについては、個人ノートに記録されているが、介護計画に反映されていない。	月1回のモニタリングを基に、3ヶ月毎の定期的な見直しと状態の変化に応じて随時の見直しを行ってほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ノートの活用、記録項目の工夫等し、見直す様、心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会や来所は24時間対応可能であり、デイサービス等も利用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊かな暮らしとまでは行かないが、近くの神社へのお参りや、近所の家の庭等へお邪魔する事もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を依頼し、情報を共有し、医師の指示を仰いでいる。又、受診にも付添い、家族の希望を大切にしている。	本人・家族等の希望するかかりつけ医となっている。家族が受診に同行出来ない場合は職員が代行し、受診結果を報告している。協力医の往診が2週に1度行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換を必ずしている。職員も入院先を訪問する等し、関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の体験を生かし、医師・家族と職員とで方針を共有し、記録を取りながら検討を重ねている。。	契約時、本人・家族等に「看取りの指針」を説明している。段階に応じて本人・家族等の意向を確認し、主治医及び関係者全員で連携をとり、家族等の意向に沿った支援に取り組んでいる。看取りを実践しており、看取りノートを作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会等への参加を積極的に勧めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練等行っているが、地域の方の参加が得られていない。	5月・自主訓練(通報・消火・避難誘導)を実施している。11月・消防署立会いで総合訓練(通報・消火・避難誘導)を実施している。訓練には近所の人々も参加している。災害時の備蓄は用意されている。	利用者や職員が確実な避難方法を身に付けられるように、実践訓練の増加や職員だけの避難誘導の限界を踏まえて、地域との協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人その人の思いを尊重し、さり気ない声掛けの中に、安心と信頼をして頂ける様努めている。。	一人ひとりの思いを尊重し、さりげない言葉かけをするように努めている。言葉遣いはその都度注意をしている。特に入室時やトイレ誘導時の言葉かけや対応に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも話して頂ける様、傾聴に努めている。難聴の方には、ボードで筆談したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になりがちであるが、1人1人のペースに合わせ、希望を尋ねたり、サインを読み取ったりして、個別対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの準備を一緒にし、アドバイス等しながら支援している。出張美容師には、本人の望む髪型にもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー表を活用したり、職員も一緒に食事をし、楽しみながら食べて頂く雰囲気作りをしている。	利用者はテーブル拭き・おしぼり配り・後片付け・おやつ作り等を職員と一緒にやっている。職員も利用者と同じテーブルを囲み、楽しい雰囲気です。誕生日には、その人の好きな献立を用意している。外食にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食やトロミ食、糖尿病食等それぞれに対応し、盛り付けの工夫等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人に声掛けし、力に応じた歯磨きのでつだいを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をし、自然な排泄に向け、自尊心を傷つけない様、トイレ時間の声掛けや誘導等をしている。	排尿・排便の様子を記録し、個々の排泄パターンを把握して、言葉かけやトイレ誘導を行い、オムツの使用を減らすよう努めている。排泄介助や失禁時の言葉かけや対応には、十分注意をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた運動等をして頂きながら、排便につながる様な食事作り等を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人が週に3回入浴する時間を決めていますが、体や髪を洗う着脱の自立支援を踏まえて、くつろいだゆったりする時間になる様、努めている。	毎日入浴できる体制をとっているが、一人ひとりの入浴日は決められており、基本的には週3回入浴をしている。入浴拒否の場合には言葉かけ等の工夫をしたり、清拭やシャワー浴で対応している。	入浴の曜日や時間帯を決めてしまわずに、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて、いつでも入浴を楽しめるように、個々に沿った支援をしていってほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人その人の休息は自由であり、後睡も含めて良眠して頂いている。ベッドの位置、気持ち良い寝具等にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の薬箱に配置し、医師からの助言も得ながら、薬剤情報を職員全員で共有し、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って頂き(洗濯物たたみ、おしぼり配り、新聞片付け、挨拶係等々)気分転換を図り、嗜好品もおやつに取り入れたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に合わせ、散歩を中心に屋外に出掛けられる様、支援している。	体調や天候に合わせて、周辺への散歩や隣接するデイ・サービス(イベント・書道教室等)へ出かけている。ドライブ・季節毎の花見・初詣・美容院・外食等へ出かけており、家族等と協力しながら、戸外に出て気分転換が図れるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で所有できる方には持って頂き、要望があれば買物等も出来る様に支援している。ご本人への安心や満足につながる様、家族とも連絡を取り合っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一日の中で好きな時に電話を使って頂ける様、対応している。ケアプラン担当者からの手紙もご家族から感謝していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の共有できるホールの掲示板等を用いて、日々の季節感を出す様に工夫を凝らし、写真や花を飾る等している。	ホールは広く、大きなテレビや大きなソファが設置されており、畳の間もある。壁には行事の写真や日めくりカレンダー、懐かしい歌詞を掲示している。松飾りや繭玉、花等を飾り、季節感を採り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全てが士会に入り易いが、ホールと居室のみで、居場所作りとしては不足していると感じている。ソファや椅子の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望によりテレビ等やぬいぐるみ等置かれいる。行事のスナップ写真等も貼り、声掛けの話題にしたりしている。	各居室には、箆笥・鏡台・テレビ・チェスト・家族の写真・化粧品・縫いぐるみ等、馴染みのものや好みの品々が持ち込まれ、その人らしい居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々の居住空間が分かる様に、表札・写真等を配置し、トイレや浴室も解り易い様工夫をしている。		